

2018年11月15日
ぶぎん地域経済研究所
ちばぎん総合研究所

埼玉県・千葉県企業アンケート調査の比較分析（第5回）

「ぶぎん地域経済研究所」および「ちばぎん総合研究所」では、千葉・武蔵野アライアンス（注）の下で、埼玉県・千葉県の企業アンケートに共通の調査項目を設定し両県の比較分析を行った。「18年度の国内景気見通し」、「決算状況」について、共通の調査を実施した。

（注）16年3月に締結した包括提携契約。

（ぶぎん地域経済研究所）

業種別・規模別回答企業数

（単位：社）

	合計	企業規模	
		100人以上	100人未満
全産業	210	103	107
製造業	119	53	66
紙加工品等	10	2	8
化学・プラスチック・ゴム製	8	4	4
鉄鋼・非鉄金属	11	6	5
金属製品	8	4	4
その他素材型	10	1	9
一般機械器具	12	6	6
電気・情報通信機械器具	10	2	8
電子部品・デバイス	10	4	6
輸送用機械	11	9	2
精密機械	8	4	4
飲・食料品	10	5	5
印刷・同関連業	8	5	3
その他製造業	3	1	2
非製造業	91	50	41
一般建設	19	6	13
住宅建設	7	4	3
卸 売	12	4	8
小 売	21	16	5
運輸・倉庫	9	8	1
不動産	7	2	5
その他非製造業	16	10	6

調 査 要 領

- 対象企業…埼玉県内に本社または事業所を有する企業
- 方 法…郵送によるアンケート方式
- 実施時点
配布：2018年7月25日
回収：2018年8月28日
- 回答状況…調査対象企業 557社
内有効回答数 210社
有効回答率 37.7%

（注）調査票の回収数は210だが、設問ごとに回答数が異なるため、各問での有効回答数（母数：n）は異なる。

（注1）従業員100人以上を「企業規模の大きい企業」に、従業員100人未満を「規模の小さい企業」とした。

（注2）その他素材型は、繊維・衣服・その他の繊維、木材・木製品・家具、窯業・土石の3業種。

(ちばぎん総合研究所<千葉経済センターから調査を受託>)

業種別・本社所在地別・規模別回答企業数

(単位：社)

	合計	本社所在地		企業規模	
		県内	県外	大企業	中小企業
全産業	239	213	26	97	142
製造業	124	108	16	30	94
食料品	26	21	5	9	17
石油・化学	15	10	5	6	9
プラスチック	9	8	1	1	8
窯業・土石	13	13	0	2	11
鉄鋼・非鉄金属	9	9	0	1	8
金属製品	17	13	4	3	14
一般・精密機械	8	8	0	2	6
電気機械	6	6	0	3	3
輸送用機械	9	9	0	2	7
その他製造	12	11	1	1	11
非製造業	115	105	10	67	48
建設	16	14	2	7	9
運輸・倉庫	11	11	0	2	9
卸売	23	21	2	14	9
小売	17	15	2	14	3
ホテル・旅館	13	11	2	5	8
サービス	35	33	2	25	10

調査要領	
1.	対象企業… 千葉県内に本社または事業所を有する企業
2.	方 法… 郵送によるアンケート方式
3.	実施期間… 配布：2018年 8月31日 回収：2018年 10月11日
4.	回答状況… 調査対象企業 584社 内有効回答数 239社 有効回答率 40.9%

(注) 調査票の回収数は239だが、設問ごとで回答数が異なるため、各問での有効回答数(母数:n)は異なる。

注) 大企業、中小企業の区分は下記による。

大企業…資本金1億円以上。ただし、卸売業は5,000万円以上、小売業、ホテル・旅館業、サービス業は3,000万円以上とする。
中小企業…資本金1億円未満。ただし、卸売業は5,000万円未満、小売業、ホテル・旅館業、サービス業は3,000万円未満とする。

* (参考) 埼玉県と千葉県の産業構造の比較

	単位	年次	全国	埼玉県	順位	千葉県	順位
事業所数	力所	2016	5,340,783	240,542	5	188,740	9
住宅着工	戸	2017	964,641	59,617	5	52,568	6
商店数	店	2014	1,407,235	58,581	6	48,366	9
商品販売額	億円	2014	478,828	14,333	7	10,626	9
製造品出荷額等	億円	2016	3,020,356	126,828	6	114,020	7
延べ宿泊者	万人	2017 速報	49,819	434	36	2,299	5

事業所数(2016年)

(単位:力所、%)

	埼玉県		千葉県	
		構成比		構成比
全産業(公務を除く)	240,542	-	188,740	-
農林漁業	576	0.2	1,001	0.5
鉱業、採石業、砂利採取業	33	0.0	60	0.0
建設業	25,762	10.7	19,912	10.5
製造業	26,691	11.1	11,082	5.9
電気・ガス・熱供給・水道業	132	0.1	131	0.1
情報通信業	1,684	0.7	1,457	0.8
運輸業、郵便業	6,909	2.9	5,504	2.9
卸売業、小売業	56,851	23.6	47,017	24.9
金融業、保険業	3,049	1.3	2,821	1.5
不動産業、物品賃貸業	16,584	6.9	12,233	6.5
学術研究、専門・技術サービス業	8,573	3.6	6,831	3.6
宿泊業、飲食サービス業	27,883	11.6	25,104	13.3
生活関連サービス業、娯楽業	22,637	9.4	19,310	10.2
教育、学習支援業	9,056	3.8	6,903	3.7
医療、福祉	20,058	8.3	16,820	8.9
複合サービス事業	937	0.4	981	0.5
サービス業(他に分類されないもの)	13,127	5.5	11,573	6.1

(出所:経済センサス活動調査)

産業分類別 製造品出荷額(2016年・従業員4名以上)

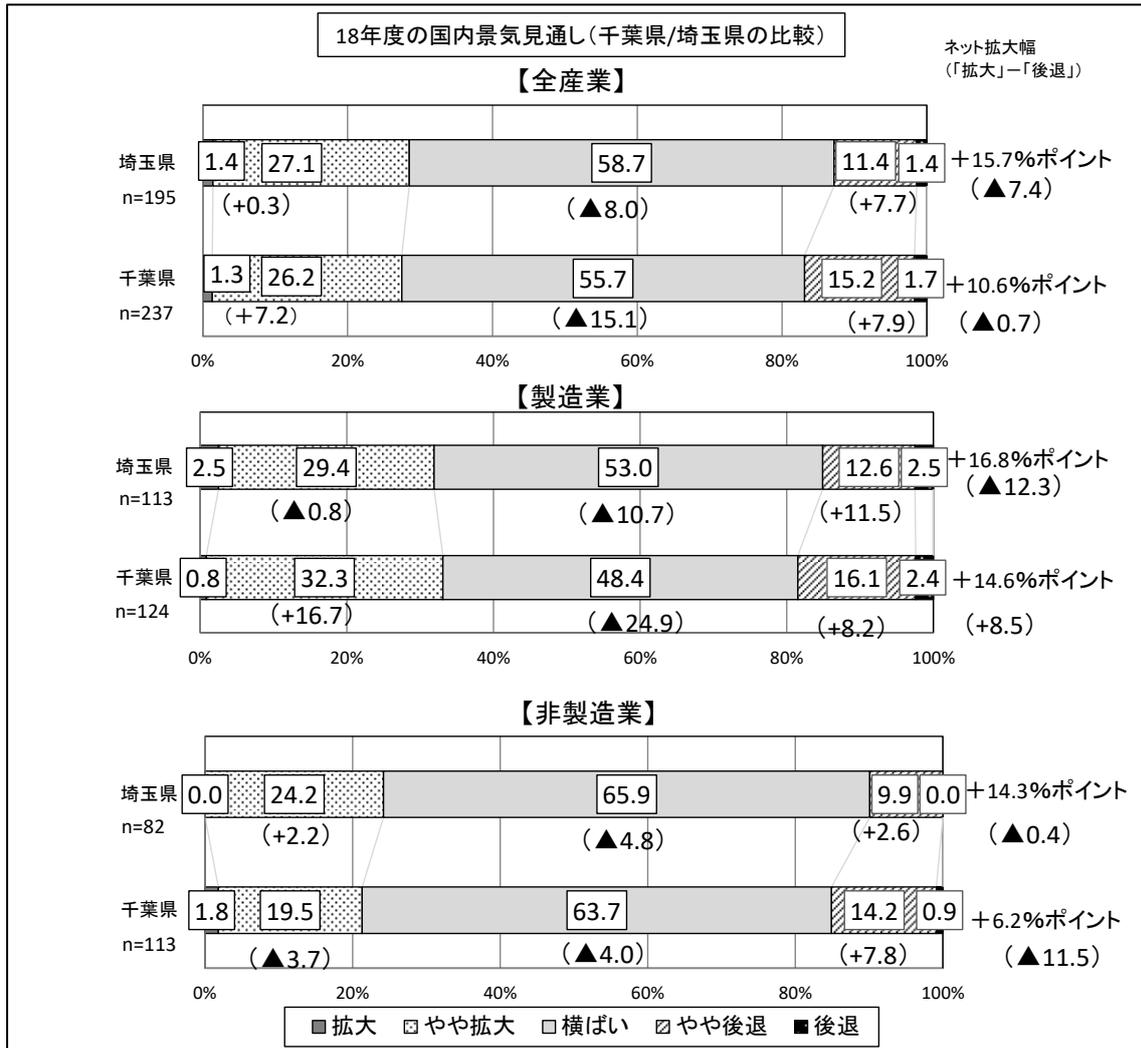
(単位:億円、%)

	埼玉県		千葉県	
		構成比		構成比
製造業合計	126,828	-	114,020	-
素材型	38,476	30.3	68,745	60.3
化学	15,466	12.2	21,909	19.2
石油製品・石炭	394	0.3	22,323	19.6
鉄鋼	2,742	2.2	14,928	13.1
プラスチック	6,468	5.1	2,969	2.6
窯業・土石・繊維	3,553	2.8	3,118	2.7
非鉄金属	5,389	4.2	2,305	2.0
パルプ・紙・紙加工品	4,464	3.5	1,193	1.0
加工型	55,150	43.5	21,647	19.0
輸送用機械器具	22,726	17.9	1,182	1.0
電気機械器具・情報通信	7,268	5.7	3,857	3.4
業務用機械器具	5,234	4.1	1,291	1.1
生産用機械器具	4,810	3.8	4,814	4.2
電子部品・デバイス・電子回路	3,921	3.1	2,253	2.0
はん用機械器具	4,090	3.2	2,322	2.0
金属製品	7,100	5.6	5,928	5.2
生活関連・その他	33,202	26.2	23,628	20.7
食料品	19,803	15.6	19,330	17.0
印刷・同関連業	7,390	5.8	999	0.9
その他(ゴム・家具等)	6,010	4.7	3,299	2.9

(出所:工業統計調査)

18年度の国内景気見通し

18年度の国内景気見通しは、両県とも「拡大」が「後退」を上回ったが（全産業）、半年前の調査と比べると、見方はやや慎重化した。両県とも「後退」割合がやや高まるなか、「拡大」とする先が、埼玉県では横ばいとなったのに対し、千葉県では増加し、「拡大」社数構成比から「後退」社数構成比を引いた「ネット拡大幅」の前回調査比は、埼玉県の▲7.4%ポイントに対し、千葉県は▲0.7%ポイントとなった。



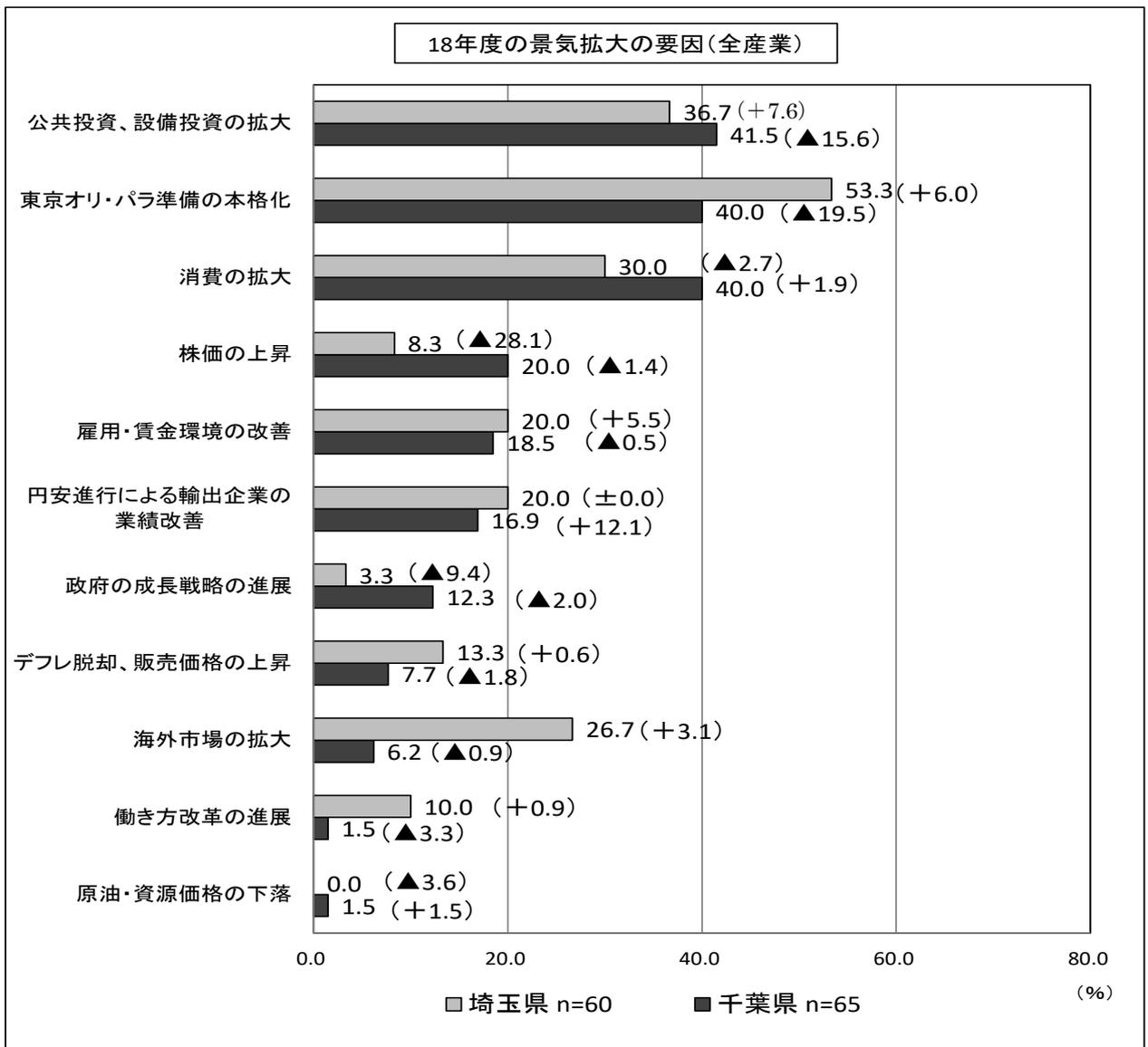
()内は各県の前回調査比、単位%ポイント。今回調査より、「やや拡大」「やや後退」を選択肢に加え、それぞれ「拡大」「後退」との合計を前回調査と比較している。

		調査期間	回答数	期間中の日経平均 終値平均	期間中の為替相場 (ドル円)の平均
埼玉	今回	18年7月25日～8月28日	210	22,471.79円	111.05円/ドル
	前回	18年1月26日～2月19日	195	22,334.79円	108.48円/ドル
千葉	今回	18年8月31日～10月11日	239	23,321.68円	112.36円/ドル
	前回	18年3月1日～4月11日	217	21,437.20円	106.22円/ドル

18年度の景気拡大の要因

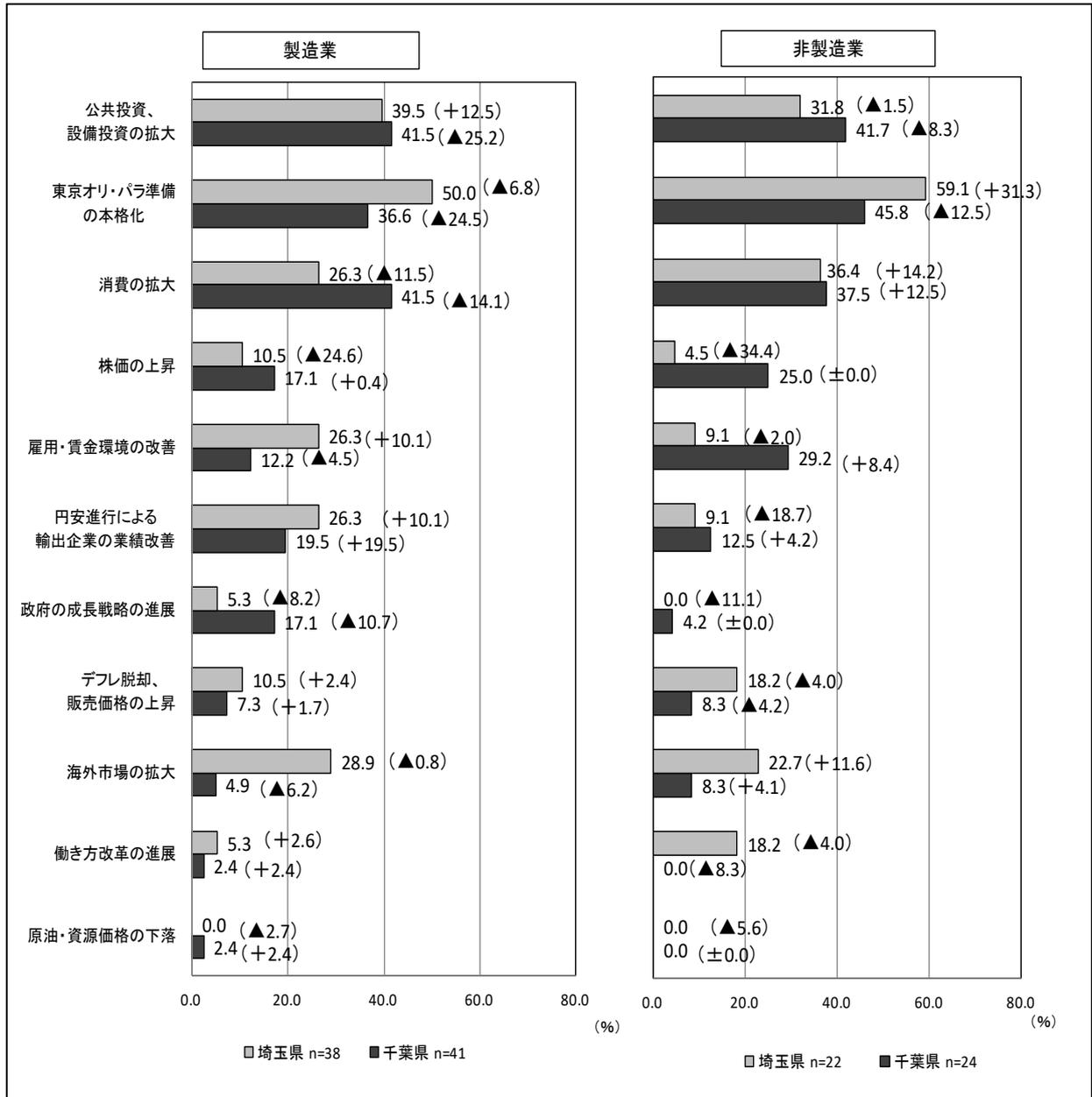
景気拡大の要因は、埼玉県では、「東京オリ・パラ準備の本格化」が最も多く、「公共投資、設備投資の拡大」、「消費の拡大」が続いた。千葉県では、これら3つの要因がそれぞれ全体の約4割と高い割合を占めた。

前回調査との比較では、埼玉県では、「東京オリ・パラ準備の本格化」、「公共投資、設備投資の拡大」が増加する一方、千葉県では、前回に多くみられた「東京オリ・パラ準備の本格化」、「公共投資、設備投資の拡大」の減少が目立った。千葉県での減少は、オリ・パラ開催に向けた官民一体の支援組織の設立など、開催機運の醸成面で先行していたことや、圏央道開通や成田空港機能強化において、おおまかな道筋が立てられたことなど、これまでの期待感の反動が現れたとみられる。



製造・非製造業別にみると、製造業では「東京オリ・パラ準備の本格化」、「公共投資、設備投資の拡大」が多いことは両県とも共通している。埼玉県では、次いで「海外市場の拡大」が多いが、千葉県では、これを挙げる先が少なかった。

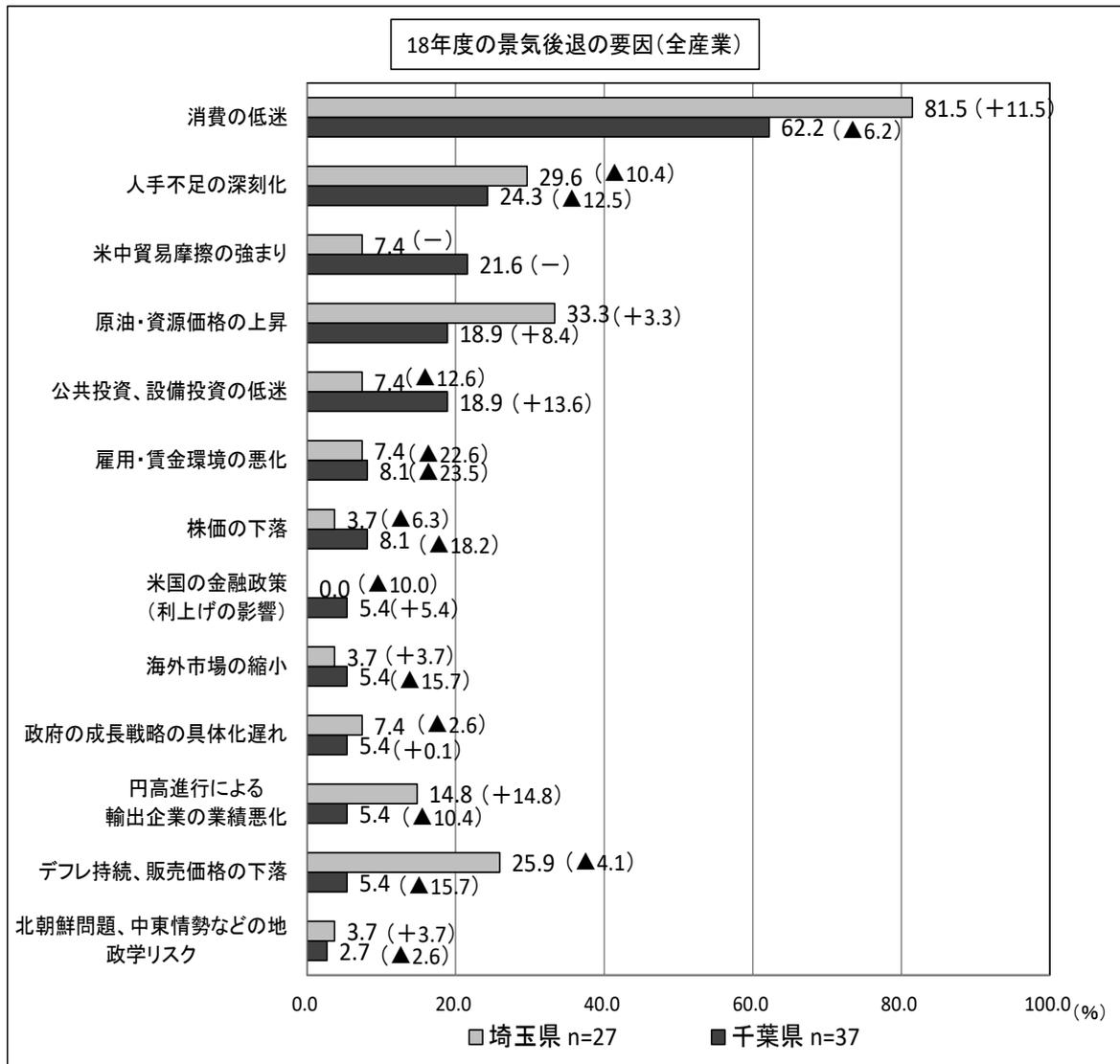
非製造業も、両県で「東京オリ・パラ準備の本格化」が多い。オリ・パラ以外では、「公共投資、設備投資の拡大」を挙げる先は埼玉県（31.8%）が千葉県（41.7%）を1割程度下回り、「消費の拡大」は、ほぼ同程度だった。



() 内は各県の前回調査比、単位%ポイント

18年度の景気後退の要因

景気後退の要因は、両県とも「消費の低迷」が最も多い。「消費の低迷」を挙げる先は、埼玉県が千葉県を2割近く上回っている。これは、埼玉県では、印刷業などの生活関連型業種で要因として挙げる先が多かったことによる。「消費の低迷」以外でみると、埼玉県は、「原油・資源価格の上昇」が、千葉県では、「人手不足の深刻化」が続いた。「人手不足の深刻化」を挙げる先は埼玉県でも多く、千葉県をやや上回っている。埼玉県では、「デフレ持続、販売価格の下落」、「円高進行による輸出企業の業績悪化」も多いが、千葉県では、これらを挙げる先は少なかった。

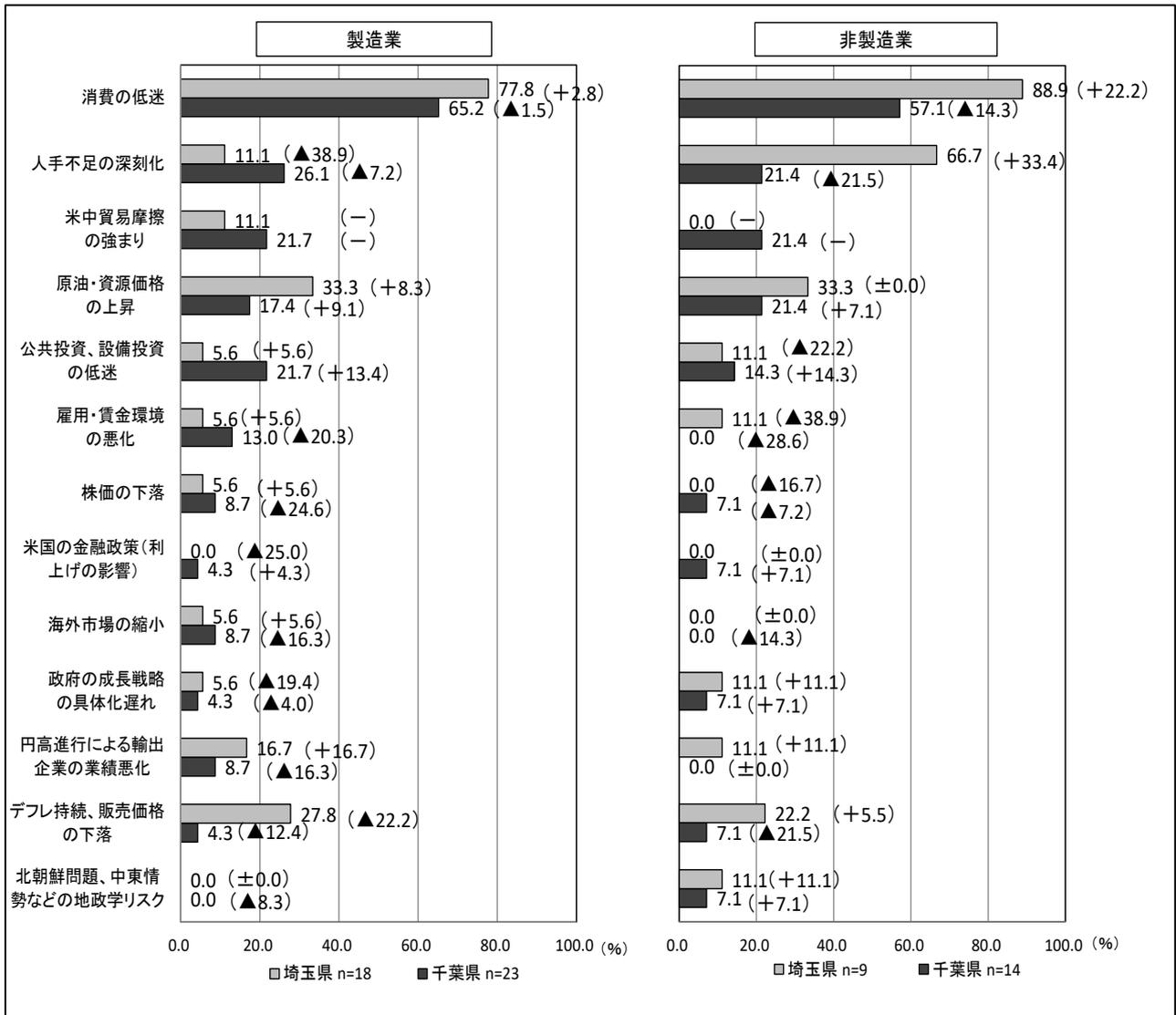


() 内は各県の前回調査比、単位%ポイント

(-) は今回よりアンケート項目に追加

製造・非製造業別では、両県いずれも「消費の低迷」が最も多い。製造業では、埼玉県は、「原油・資源価格の上昇」が、千葉県は「人手不足の深刻化」が続いた。埼玉県では、「デフレ持続、販売価格の下落」も多いが、千葉県では、これを挙げる先は少なかった。

非製造業では、埼玉県は、「人手不足の深刻化」が目立ったが、千葉県は「人手不足の深刻化」、「米中貿易摩擦の強まり」、「原油・資源価格の上昇」が同割合で続いた。



() 内は各県の前回調査比、単位%ポイント

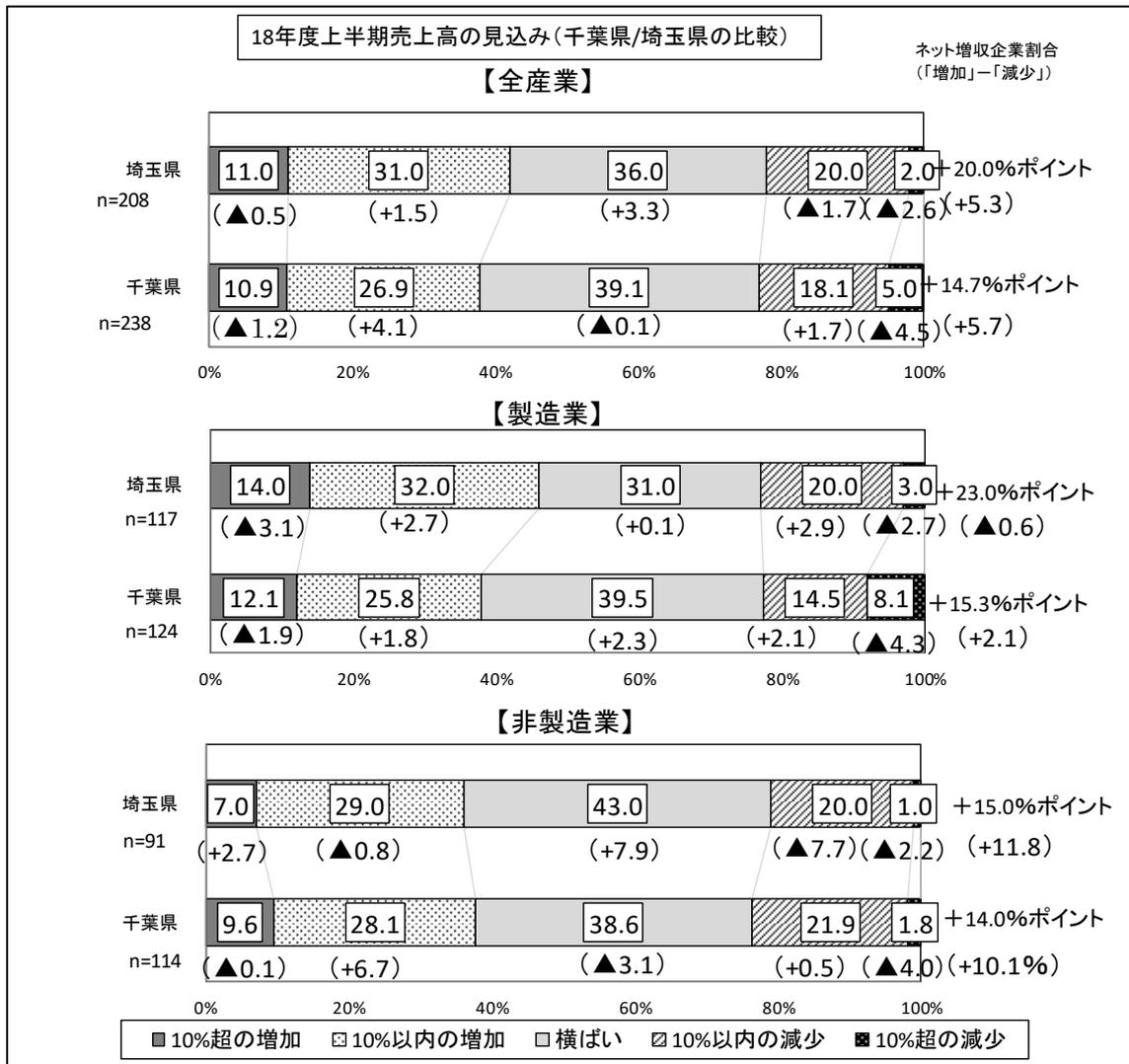
(—) は今回よりアンケート項目に追加

18年度上半期業績

決算状況は、18年度上半期業績（対17年度上期比変化）と18年度通期見通し（対17年度通期比変化）について調査した。

上半期業績のうち、売上高をみると、「増収」社数構成比から「減収」社数構成比を引いた「ネット増収企業割合」は両県ともプラスとなった。両県比較では、埼玉県（+20.0%ポイント）が千葉県（+14.7%ポイント）を上回った。両県ともに、製造業・非製造業いずれもプラスとなっている。

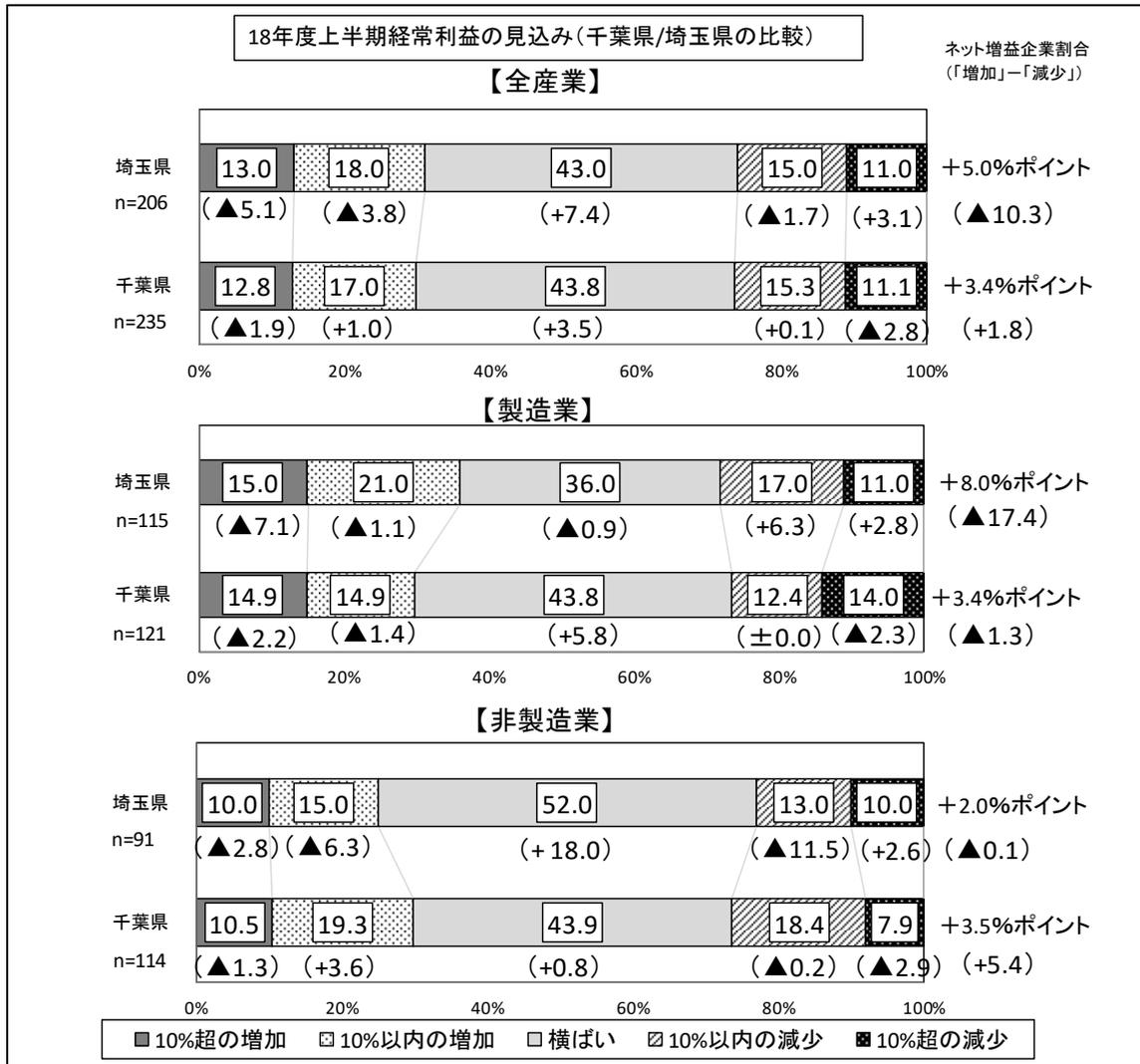
1年前に実施した調査と比較すると、埼玉県・千葉県ともに、プラス幅を小幅拡大させた。製造・非製造業別では、両県とも非製造業が大きく改善するなか、埼玉県では、製造業の改善幅が幾分前年を下回った。



() 内は各県の前回調査比、単位%ポイント

経常利益も「ネット増益企業割合」は、埼玉県（+5.0%ポイント）が千葉県（+3.4%ポイント）をやや上回った。製造業は、埼玉県（+8.0%ポイント）が千葉県（+3.4%ポイント）を上回り、非製造業では、千葉県（+3.5%ポイント）が埼玉県（+2.0%ポイント）をやや上回った。

前年調査との比較では、加工組立産業が多く、海外経済の拡大などで好調だった埼玉県の製造業で反動減が目立った。



() 内は各県の前回調査比、単位%ポイント

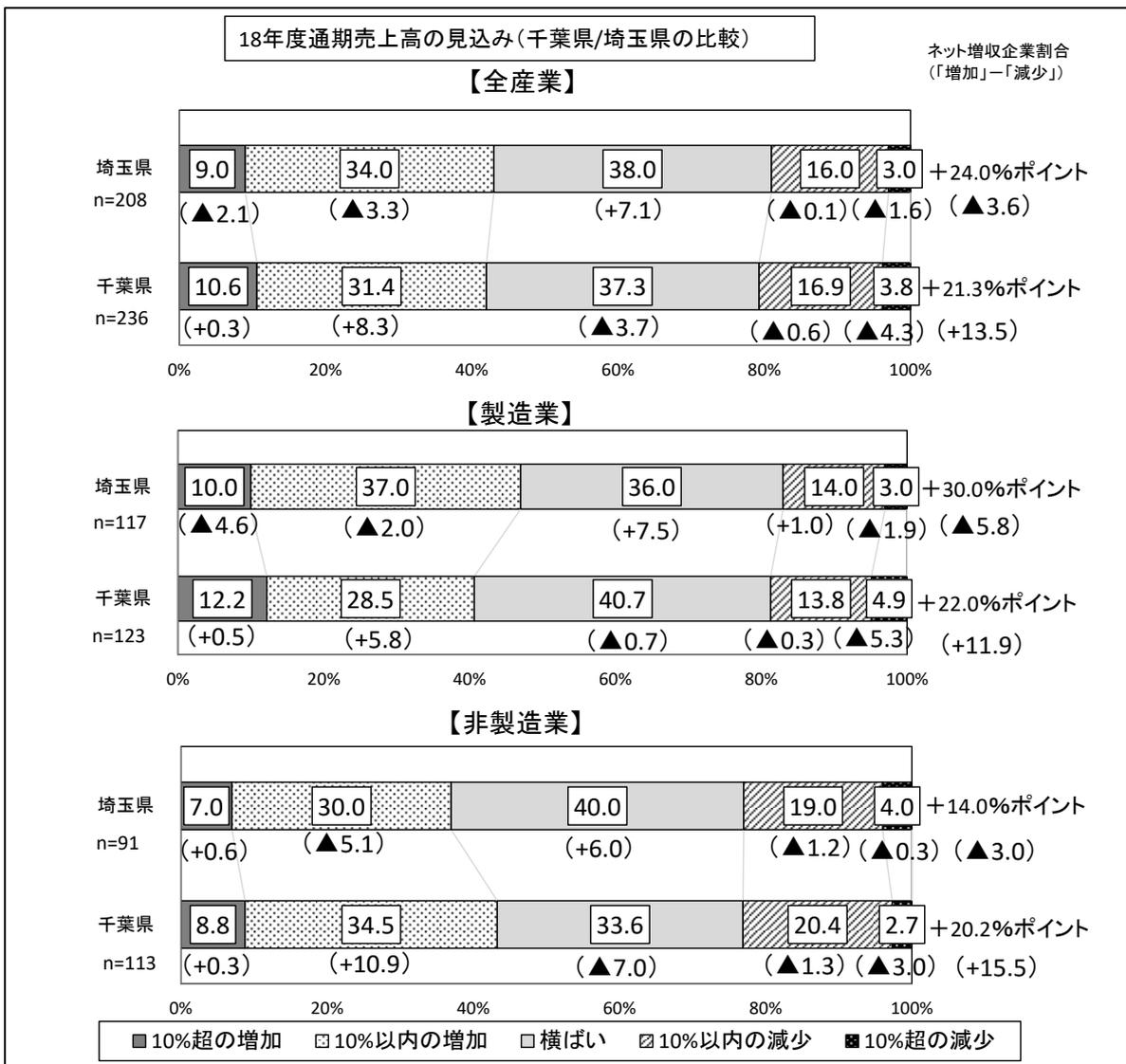
		調査期間	回答数	期間中の日経平均 終値平均	期間中の為替相場 (ドル円)の平均
埼玉	今回	18年7月25日～8月28日	210	22,471.79円	111.05円/ドル
	前回	17年7月25日～8月25日	217	19,771.67円	110.24円/ドル
千葉	今回	18年8月31日～10月11日	239	23,321.68円	112.36円/ドル
	前回	17年9月1日～10月13日	239	20,181.50円	111.27円/ドル

18年度通期業績見込み

通期業績（対17年度比増減）の比較では、ネット増収企業割合は、埼玉県（+24.0%ポイント）が千葉県（+21.3%ポイント）をやや上回った。両県ともに、上半期からの伸びを高める（埼玉県：上半期20.0%ポイント→通期24.0%ポイント、千葉県：同14.7%ポイント→21.3%ポイント）。

製造・非製造業別では、製造業は、両県とも上半期からの好調を維持するが、非製造業では、埼玉県の伸びがやや鈍化する（上半期15.0%ポイント→通期：14.0%ポイント）。

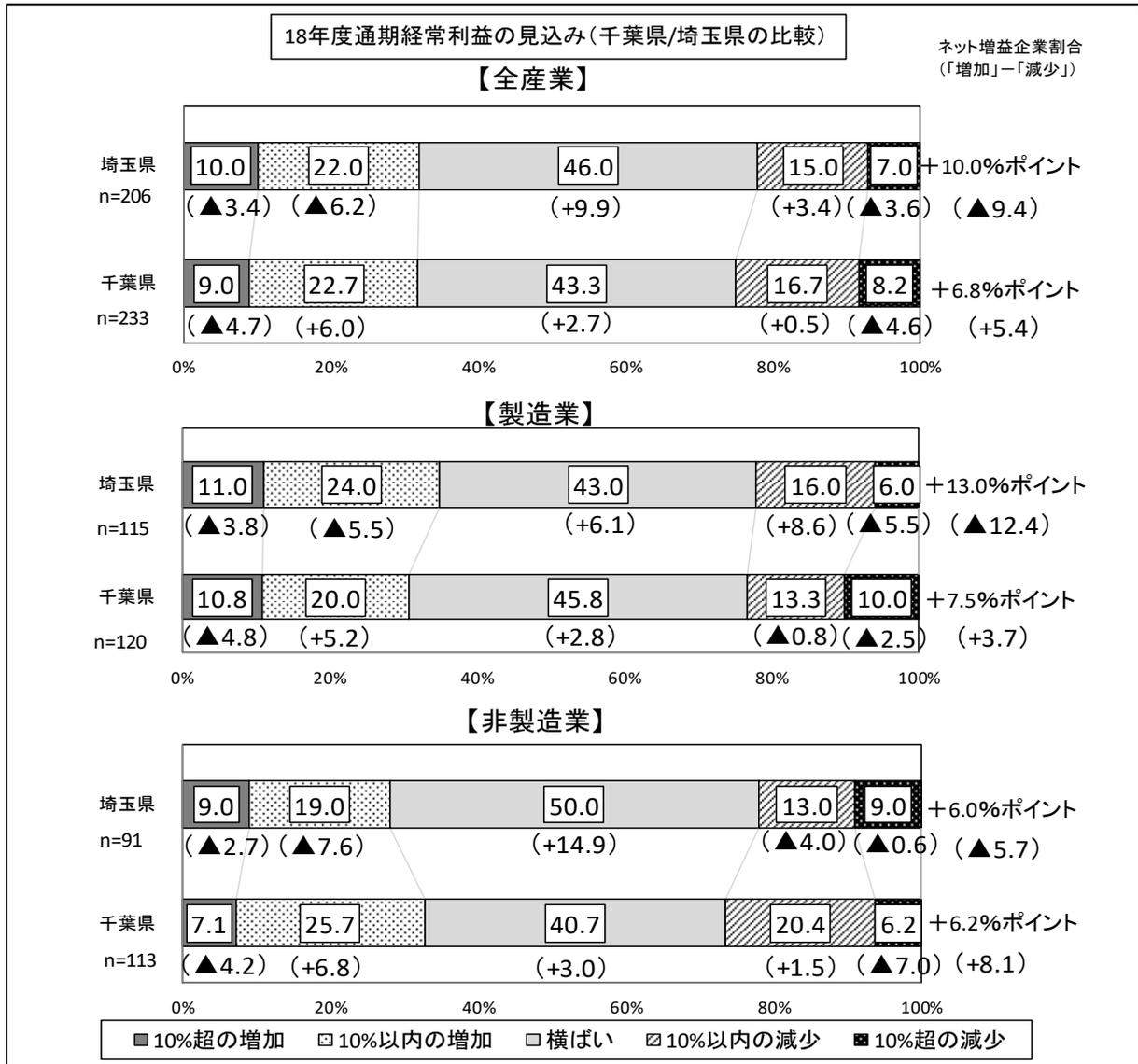
前年調査との比較では、埼玉県は、製造業、非製造業ともにプラス幅が縮小したのに対し、千葉県では、ともに拡大した。



() 内は各県の前回調査比、単位%ポイント

経常利益の見込みも埼玉県（+10.0%ポイント）が千葉県（+6.8%ポイント）を上回った。両県とも製造業、非製造業、いずれも上半期からの伸びを高める（埼玉県：上半期 5.0%ポイント→通期 10.0%ポイント、千葉県：同 3.4%ポイント→6.8%ポイント）。

前年調査との比較では、売上高と同様、埼玉県では、製造業、非製造業ともにプラス幅が縮小したのに対し、千葉県では、ともに拡大した。



() 内は各県の前回調査比、単位%ポイント

以上